

「おこづかい帳」は、おこづかいをもらったり、何かを買ったりした際に、お金の出入りを記録しておくものです。「おこづかい帳」をつけると、今いくらお金があるのかが分かるだけでなく、上手にお金を使うためのいろいろな発見もあります。さあ、「おこづかい帳」のつけ方を学んで、“お金名人”をめざそう！



ワーク1

例 おかしは300^{えん}円までにする

か かた 書き方のヒント

つき はじ ぜんげつ のこ かね き にゆう
月の初めに前月の「残ったお金」を記入しよう

なに^{なに}につか^{つか}わす^{わす}れたときには、「**なんで（もらった・使った）**」の欄に「**不明**」と書いて、金額^{きんがく}を記入^{きいにゅう}しておこう

月の最後に1カ月間で**入ったお金(収入)**、**出たお金(支出)**、**残ったお金**がいくらになったのか
「合計」を計算しよう

ワーク2

「おこづかい帳」を見て、1カ月を振り返ってみよう

①「買ってよかったもの」を書こう

②「買わなければよかったもの」を書こう

③「おこづかい帳」をつけて、気がついたことを書こう

番外編①

おうちの人に感想を書いてもらおう

番外編②

おうちの人とお金を使うときの約束を話し合おう

よく頑張ったね!これから
「おこづかい帳」を続けよう!



お金名人
マスター

保護者の方へ



最近ではプリペイドカードなど「**見えないお金**」が普及したことで、お金を支払うという感覚を持ちにくくなっています。一方で、(図1)のように昔に比べて、子どもが買うもの、目に見えて残る「マンガ」などから、食べてなくなってしまう飲食などの「**見えにくい支出**」に変化。「**見えないお金**」「**見えにくい支出**」は、気が付いたらおこづかいがなくなっていて、何に、いくら使ったかわからない…ということになりがちです。

お金を上手に使える大人になるためには、おこづかい帳で**お金の出入りを記録し、振り返り、次に活かす**…という経験が大切。(図2)からも、おこづかい帳を付けている子のほうが、お金の使い方をよく考えていることがわかります。

おこづかい帳は、お金上手への第一歩。無駄遣いを叱るのではなく、「**お金**」の使い方を子どもと一緒に振り返り、**よりよいお金の使い方を考えられる人になるよう**、子どもの成長を温かく見守っていきましょう。

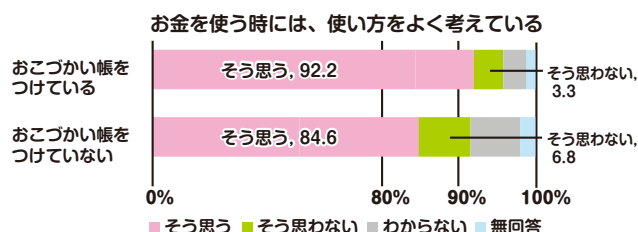
(図1) おこづかいの使い道ベスト3 <複数回答>

1988年			2015年		
順位	小学生	中学生	順位	小学生(高学年)	中学生
1位	マンガ 雑誌	マンガ 雑誌	1位	おかしやジュース	友達との 外食・軽食代
2位	食べ物	食べ物	2位	ゲームソフトや おもちゃ類	おやつなどの 飲食物
3位	貯金	音楽 映画	3位	マンガ	友達への プレゼント

(総務庁青少年対策本部「非行原因に関する総合的研究調査(第3回)」1999年)
(金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)2015年度調査)をもとに作成

※小学生の調査項目は友達との有無を問わず、飲食はすべて「おかしやジュース」
※中学生はお小遣いで買ったり、支払ったりすることが「よくある」「ときどきある」の合計

(図2) おこづかい帳とお金の使い方 <小学校高学年>



(金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)2015年度調査をもとに作成)